

福音の園だより

【第二十三号 二〇〇六年十一月七日発行】

350・0016 埼玉県川越市木野目一八七八番地一

特定非営利活動法人 福音の園・埼玉 事務局

☎ 049・230・1111

FAX 049・230・1112

ご家族の声

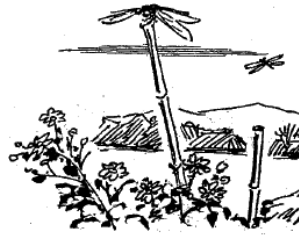
良質な介護を実感

先日、夫と二才の息子と共に、祖母を訪ねました。転倒して腰を打つたと聞いていましたが、福音の園での行き届いた介護のおかげで回復できて元気にしていました。

私は都内でケアマネージャーの仕事をしているのですが、身体が動かせなくなると、内臓の機能や筋肉が全体的に落ちてくるので、さらに動けなくなるといふ例を度々見ています。

福音の園では、各々のニーズを大切にして良質な介護がなされている事を実感しました。

グループホームの良いところは、入居者の家族的なまとまりにあります。それからまた、食事の用意や後片付けの手伝い、庭仕事、おそうじなど、自分のできる仕事をする事によって、生活の中で自分の力が生かせるという自覚や励みを得ることです。住宅事情の狭い都内とちがって、福音の園は自然環境に恵まれ、ゆったりと暮らすことができていると思います。(看護師 T・O)



開園三年目を目指して

竿の先にとまった赤とんぼ

グループホーム 福音の園・川越 ホーム長 杉澤 卓巳
「ピアノの会」(毎週火曜・十一時Y・Kさん指導)では、季節折々の歌を歌ったり、またピアノ演奏を聞かせていただいたりして、楽しいひと時を過ごしています。秋に因んだ歌の一つ「赤とんぼ」を利用者の皆さんと歌いながら、四番の歌詞に、福音の園が目指す一点を痛感しました。

四、夕焼け、小焼けの 赤とんぼ

とまっているよ 竿の先

三木露風(1889~1964)が、赤とんぼの詩を、北海道函館のトラピスト修道院で作り、「我が愛する妻 三木モニカ(洗礼名)」に贈りました。「とまっているよ 竿の先」は、修道院内に掲げられた十字架そのもの。羽化した赤とんぼが秋空を舞い、竿にとまって羽根を休める姿に、真の休息を求めて旅する、人の一生が重ね見えたに違いありません。

「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。」(マタイの福音書 十一・二十八)。

敗戦と引き揚げの辛苦を体験された方々が老年になって当園に入居された。認知症とは言え、心置き無く過ごせるように配慮されているか。

「利用者優先・業務工夫」がいつの間にか「業務優先・利用者二の次」になっていないか。「それがあなたの親ならどうする?」「家族は望んでいの?」「あなたが当事者だったらどうする?」ケアの仕方にスタッフが答えを出すのではなく、ケアの答えはご利用者が出すものだということ。

真のケアは「手早さ」「やりやすさ」「システム化」「組織化」の中にはなく、「利用者お一人ひとりの心の中にある」ことをスタッフ一同再確認し、さらなる介護の質向上を目指してまいります。

退所者ご家族の声

この度は母の元気なスナップ写真を多数お届け下さり、ご配慮感謝いたしました。

在所中、母はスタッフの皆様からの家族以上の支えを受けて日々を心穏やかに過ごしていました。事を改めて感じ、有り難く思いました。

福音の園・川越の皆様のご健康と御多幸を祈っております。ありがとうございます。(S・N)

福音の園・川越 優良事業所 に表彰される

「高齢者雇用支援月間」(社団法人埼玉県雇用開発協会主催)の十月二十四日(火)に表彰されました。

全従業員の内、五五才以上を「高齢者」とし、高齢者に優しい職場作り(職場改善・能力開発・人事管理・職場創出・健康管理)の状況等の審査選考の結果、「高齢者雇用優良事業所」に選定され、協会会長表彰されました。皆様のご支援・ご協力に感謝いたします。

【開園二周年記念バザーの御礼】

木野目地区わかば台・わかば台藤木・あすなろ・さくら堤の各自治会長様宛、チラシ回覧を依頼して迎えた十月二一日(土)、九時半開店バザー八五名の近隣の方々はじめ、ご家族の皆様にご来園いただきました。ありがとうございます。

一緒にお世話になる方、募集中!

- ▼ パート介護職員 (ヘルパー二級有資格者大歓迎)
- ▼ パート調理職員 (料理の好きな方大歓迎)
- ▼ ボランティア (散歩、話し相手、園芸作業、他)